

# 令和元年度 三島商工会議所 経営発達支援計画 評価会議 報告

1. 日 時 令和2年9月3日（木） 13:30～15:00
2. 場 所 三島商工会議所 4階会議室A
3. 評価委員 栗原 英己 氏（三島市 産業振興部 部長）  
（順不同） 今泉 清司 氏（三島信用金庫 常勤理事 元気創造部 部長）  
中山 勝 氏（一般財団法人 企業経営研究所 理事長）  
良知 雅和 氏（静岡県信用保証協会 沼津支店 経営相談課 課長）
4. 出席者 上記3. 評価委員4名  
小島(中小企業相談所長)、市川(経営支援課長)、宇水(経営支援課主幹) 計7名
5. 評価方法 事務局から令和元年度の三島商工会議所の経営発達支援計画の事業等の実施状況及び成果について説明をした。  
その後質疑応答を経て、各項目及び計画全体について、委員4名による評価を受けた。

## 6. 評価結果

### (1) 評価基準

- A（4点）：目標を十分達成している（達成度：100%）
- B（3点）：目標を概ね達成している（達成度：80%～100%未満）
- C（2点）：目標を半分程度しか達成できていない（達成度：30%～80%未満）
- D（1点）：目標を全く達成できていない（達成度：30%未満）

### (2) 評価

**【総合評価】 3. 5点／4点 （内訳：A評価 2名、B評価 2名）**

目標を概ね達成しており、特に支援者数について目標を充分達成している点で高い評価を頂いた。一方、複数の委員から「三島商工会議所以外の支援機関等との連携をさらに進めて欲しい」との意見が出た。特に「支援ノウハウの共有化」については、各支援機関を取りまとめる三島商工会議所の率先した取組を期待された。

また『経営発達支援事業』及び『経営発達支援計画』そのものの認知がまだまだ足りないのではないかという指摘を受けた。今後、商工会議所が取り組む事業として、周知に励んでほしいとの声が上がった。

さらにコロナ禍における、三島商工会議所の事業所支援への今後の要望や期待が寄せられた。

### 【各委員からのコメント】

数値化できている項目は、目標を充分達成できていると判断した。今後は質の向上を図って頂きたい。なお、新型コロナウイルス感染症に伴う、仕事の仕方、企業の仕組み等が大きく変わっているので、過去の事例に捉われず、新しい施策を積極的に取り入れて欲しい。また会議所職員が外部講師等を務めることで、職員の資質向上や会議所事業のPRを図っていくといった方法も検討頂きたい。

コロナ禍に見舞われても、概ね目標を達成している。所属機関の支援先から三島商工会議所の創業応援塾を始めとした創業支援について高い評価を伺うことがある。そのような支援ノウハウの共有化や経営発達支援事業自体の情報発信のため、支援機関間の情報交換を密にするような取組を希望する。厳しい状況の中で支援の結果が見えにくいところがあるが、継続した支援を実施してもらいたい。

係数目標に対しての実績はほぼクリアされている点は、十分評価出来ると考える。施策の深堀部分や活用・周知の部分について、より一層の工夫を求める。今後の支援の取組や調査データ等の活用について、新しい生活スタイルに準じた形式への変更が必要となる。各支援機関とのさらなる協調、特に事業承継の分野においては、コロナ禍で案件の増加が見込まれることから早期の取組が必要である。

コロナ禍の影響はあるものの目標数値の達成については申し分ない。今後、コロナ禍で見通しが立たない中、三島市内の事業者に対して、新たな需要に対応したビジネスモデルが求められているが、本機関も三島商工会議所と共に、事業者支援に取り組んでいきたいと考えている。

【各項目の評価】

分類	項目	評価※	委員からのコメント
Ⅰ. 経営発達支援事業	1. 地域の経済動向調査に関する事	3.5	昨年同様の実績で、数値目標は充分達成している。 調査の精度を上げるために、独自調査については回答率を上げるための施策を検討してほしい。 別機関が行った調査結果の公開等については、時勢に応じて頻度をコントロールした方がよい。
	2. 経営状況の分析に関する事	3.75	目標数値を大幅に上回っており、高く評価する。小規模事業者への積極的な対応が伺える。 小規模事業者への巡回件数は延べ回数だけでなく、訪問先数の把握が必要である。
	3. 事業計画策定支援に関する事	3.5	セミナー参加者から好評の口コミを聞いている。 策定のノウハウだけでなく、経営理念等の啓蒙セミナーも重要である。 セミナーのほか、巡回等を通じた計画策定への啓蒙活動は効果的であり、BCPを始めとする計画策定を目指す事業者の掘り起こしを願う。
	4. 事業計画策定後の実施支援に関する事	3.5	支援件数に加えて、対象企業がどのように向上したのかを数値化して欲しい。 フォローアップは他の支援機関（ex.事業引継ぎ支援センター）との連携をした方が、より効果が高くなると思うので、検討して欲しい。
	5. 需要動向調査に関する事	3.75	需要動向調査ほど、難しいものはないので、調査後のプログラムの構築が重要である。 個々の事業所では実施が難しい商圈調査等に積極的な支援をお願いしたい。
	6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事	3.0	アウトカム項目について目標に達していない部分があるが、比較時がコロナ禍ということで理解できる。 補足説明により、数値以外の成果に結びついているのは理解できるので、今後も効果的な販促支援を期待する。 他の支援機関との連携による効果の極大化を検討して欲しい。
Ⅱ. 地域活性化	地域経済活性化に資する取り組み	3.5	今後も地域内循環に力を注いでほしい。 観光資産の有効活用に関しての関与は、より積極的に行うべきである。 商店街活性化支援については、キャッシュレスや地元住民への対応も考慮して欲しい。
Ⅲ. 支援力向上	1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事	3.5	M-ステを通じた更なる連携に努めてほしい。 今後も継続した連携を深めて頂きたい。 今後も関係機関との相乗効果の高い連携体制の拡充を図りながら、頑張る事業者への応援をお願いしたい。
	2. 経営指導員等の資質向上等に関する事	3.5	今後も、研修等により能力向上に努めてほしい。 コロナ禍の事業モデルの転換に対応できるように、様々な分野の専門家を交えたノウハウの共有化が必要である。 各支援機関の指導員、担当者間での勉強会や情報交換会などを行い、より資質の向上に努めて頂きたい。 資質向上策の一つとして、指導員が外部講師を務めるような研修を企画してほしい。
	3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関する事	3.5	各種評価会議やトップマネジメント会議を通じた検証見直しを行い、継続的な改善が行われている。 激変する社会・経済に対応するには、見直しを期の途中で行う仕組みを検討したらどうか？ コロナ禍の中、計画の修正が必要になるのではないか？

※評価の値は、各委員の評価点数の平均値（満点は4点）となる。なお、C以下の評価を付けた委員はいなかった。